



ドヤ街付近の暮らし

ここに光りを！



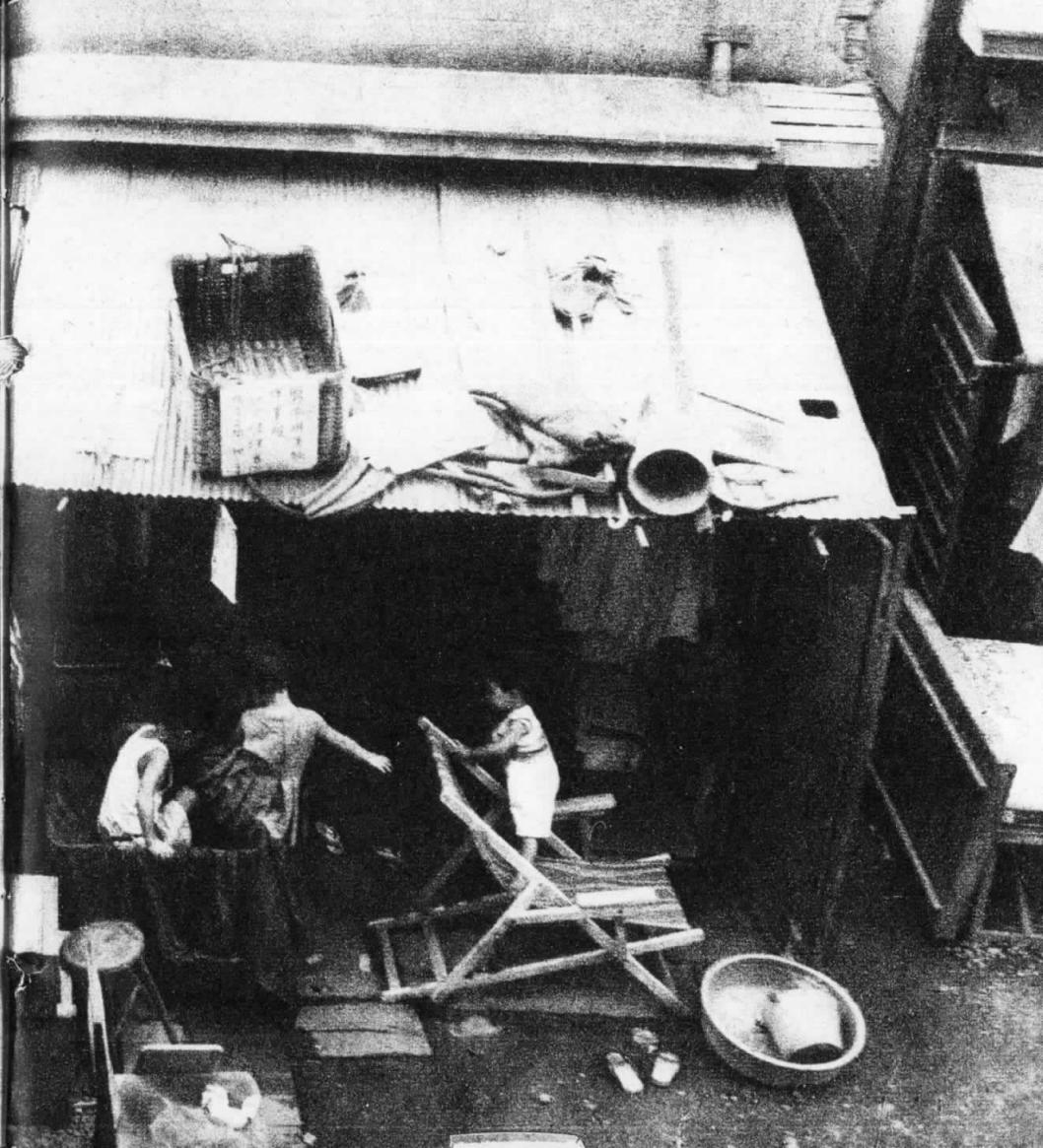


都会の谷間である。黄金の1960年といわれる景氣の年がきても、相変らず貧しい生活である。社会学者は、スラムを「都市解体地域」とよんでいる。都市の中のひずみを一身に象徴しているような陥没地帯を意味しているようだ。

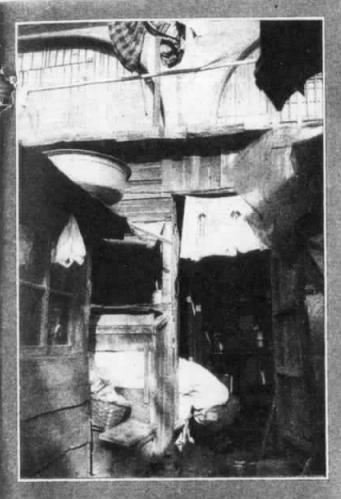
西成区から非行少年を一掃するため、西成区環境浄化対策協議会を中心となって、活動をしているが、この地域の特殊性はなかなかに消え失せない。

特に、少年の悪の道への転落のキッカケは、安宿が多いということだ。家出した問題少年は（少年でなく、大人もそうだが）ドヤ街に流れこむという。

西成署がまとめた「簡易旅館に宿泊する少年の非行状況」によると、昨年中で二百四十七人、年令は十八才が最高で、中には十四才位の子もいる。旅館には約二万人の居住者がいるといわれているが、そのうち三十%が少年だという。約六千人の少年が、環境のよくない場所で育つ。子どもの将来を思うと、暗然たらざるを得ない。立ちん坊といって、私設職安が今日の労働力を買いてくるのを待つて、街に立っている人も多い。トラックに積みこまれてゆく姿を見かける。「立ちん坊」とか「東洋のカスバ」とかいわれる、容赦ない形容詞で呼ばれる西成を、土地の人々は怒っている。「西成育ちいうたら、嫁にもいけへん」と。善良な住民にとっては、我慢のならないことで、無理のない話であるが、しかし、犯罪は多いことも事実だ。



無籍者
たは
明るい
はい
町
いつく
の日
だら
うか
か
健全な
庶民の
街に
でき、



トヤ街は、吹きだまりの人生である。人口流動の激しさは、役所でも、警察でも、その正確な人数を掴みえない。一泊30円
100円の安宿は、大阪市内の90%までが、この地帯に集まり日本最大の「トヤ街」を形づくっている。

